

第52回議会報告会～テーマ別タウンミーティング～ [企画文教委員会]

開催日：令和7年11月8日（土）

場所：中央公民館 1階大会議室

参加人数：14人（内訳：会場参加者7人、議員7人）

【テーマ】「みんなで考える これからの生涯学習」

《主な意見・内容》

① 生涯学習について

- ・市長の公約として、「生涯学習スペースの整備」が掲げられています。
- ・市民アンケートの結果では、学びの場として一番人気は「カフェ」、次いで「フリースペース」、「軽運動室」、「学習スペース」と続きました。
- ・つまり、堅苦しい学びではなく、気軽に立ち寄って交流しながら学べる場所が求められているということです。
- ・一方で、「生涯学習」という言葉には、どうしても年配の方をイメージする人が多く、若い世代や子どもの参加が少ないという課題もあります。
- ・谷田地区では、体操を取り入れた生涯学習活動が行われており、「楽しく続けることが大事」という声が多く聞かれました。
- ・補助金を活用できる場合もありますが、申請の手間や使い道の制限があるなど、現場の実情に合った制度改善が望まれています。
- ・委員会では、「声が財（たから）」という言葉が印象的でした。市民の声を拾うことこそが、まちづくりの原動力になります。民生委員さんやコミュニティスクールの取組もその一つです。地域で顔の見える関係をつくり、支え合う中でこそ、生涯学習は根づいていくのではないかと感じました。
- ・高校生議会では、若い世代の意見として「生活の中で学びを活かすことが大切だ」という提案がありました。愛知県では附属中学校の開設や、2027年からの探究的な学びへの転換など、教育の現場も大きく変わろうとしています。これからの生涯学習には、こうした若い世代の関わりが欠かせません。地域の大人が子どもたちを見守り、子どもたちも地域に貢献する——その循環が新しい学びを生み出すと考えます。

② 今後の方向性について

- ・「楽しく続けられる学び」を軸にすること。
- ・誰もが立ち寄れるコミュニティカフェや軽運動室など、身近な拠点を増やすこと。
- ・市民の声を生かし、地域と行政が一体となって生涯学習を育てていくこと。

③ まとめについて

生涯学習とは、特別な人のためのものではなく、誰もが地域の中で自然に学び合うことです。年齢や立場をこえて、声を掛け合い、支え合いながら、知立らしい生涯学習をみんなでつくっていこうというご意見でまとまりました。